

①ねらいを明確にした授業

- ・ 串小学校での国語科の実践を通して、ねらいを明確にすることの大切さを痛感した。そしてこのことは国語だけでなく他教科でも同様のことが言えるだろう。また、教師自身の中にだけねらいがあっても不十分で、そのねらいは児童と共有されるべきものであること、児童もまた見通しをもって学習に臨むことが出来るようにしなければならないこと、そして、学習後にそれぞれがつけた力が自覚できるように工夫することの大切さも実感した。
- ・ めあてを明確にするためには、この教材で、どんな力をつけたいのかを教師がしっかりつかんでおくことが必要になる。「つけたい力」を教師も子どもたちも意識することで、子どもたち自信が自分についている力を知り、既習を活かしながら自力で教材に向き合い、考え、表現しようとする意欲が高まった。
- ・ ねらいを明確にし、子どもたちと共有することは、子どもたちの意欲を高めることにつながった。そして、そのことは、国語に対する抵抗感を減らし、児童間の格差を縮小するひとつの方策でもあることを実感した。

②言葉に着目し、自分の考えを自分の言葉で表す授業

- ・ 国語科は言葉を学ぶ学習だ。自分の思いや考えを自分の言葉で表現できるようにすることはとても重要なことだと感じている。これまでの私の授業は、教材文そのものを学ばせることにとどまってしまうことが多かった。しかし、言葉を大切にしながら学習を進めることで、教材文を超えた言葉の力をつけることが出来ると感じた。
- ・ 子どもたちの言葉は決して豊かではない。豊かな言葉を育むためにも読書活動との関連はとても大切だと感じた。また、それぞれの思いや考えと言葉をつなぐことも国語科の授業の大切な役割だと改めて感じた。

③交流によって高めあう授業

- ・ 人に自分の考えや思いを伝えることは、自分の考えや思いを再確認することにつながる。子どもたちは交流を通し、自分の学びを自覚し、自己を評価することができた。
- ・ 人と交流することは楽しい。そのことから始まり、交流することは発見だったり、気付きだったり、深まりであるということを教師も子どもも実感することができた。友だちのたくさんの思いや考えにふれることで、一人や一斉指導では得られない、高まりを得られた。

④今後の課題

- ・ ねらいを明確にし、何のための活動か、どんな力をつけるための時間なのか、そしてそれがどんな力につながるかを児童と共有することの重要性は感じたものの、十分共有できなかったこともあった。また、学びの自覚化や評価についてはまだ不十分なことが多かった。振り返りの時間を十分確保し、子どもたちが自分自身の成長を実感できる授業づくりをこれからもすすめたい。
- ・ つけたい力を明確にするためには、先の見通しが必要になる。目の前の子どもたちに、今この教材でどんな力をつけるのかももちろん大切なことだが、1年間でどんな力をつけるのか、その力が6年間のどこに位置づけられているのか。など6年間を見越した指導の重要性を感じた。